（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】(ユニット1階)

事業所番号	2775502798		
法人名	株式会社エートス		
事業所名	グループホームここから陽光園		
所在地	八尾市陽光園1-5-11		
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル大阪　4階
訪問調査日	令和2年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の高齢化による認知機能及び身体能力の低下による苦痛・不安の緩和に重点を置き残っている能力とともに生きる喜びを一緒に探していくことを心がけている。
職員同士で情報共有することで常に入居者の状態を把握し、問題点に気付いた時には職員間で話し合い、すぐに対応出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、代表者の地元の同敷地内に2ユニットとして開所して14年目を迎えている。建物はゆったりと建てられ、リビング・居室・廊下・水回りはどこも広く、物品は整理整頓されて清潔で明るい。リビング壁面には、開所時より毎年門松の前で写した利用者の集合写真が飾られて、歳月を感じる。職員は、102歳の利用者を始めその人の思いや希望を聞き、ぬり絵・パズル・折り紙をしたり、一緒に体操をしていて、「毎日気付かされることが多いです」と話し、利用者に寄り添ったケアに努めていることが窺える。調理専門職員が家庭的な食事を提供し、穏やかな暮らしを支援している。代表者は常勤しており、職員に気持ち良く働いてもらいたいと、無理のないシフト体制を取り、会議時に出された提案はすぐに実践に繋げている。代表者夫人・ケアマネジャーは看護師でもあり、今までに多数の看取りを経験していて、利用者家族の安心となっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の職員会議で理念を唱和し全職員が理解して実践に繋げ介護に反映させている。 利用者を見守りつつ残存能力を引き出す介護をしている。 利用者に寄り添いその人らしい生活を支援している。	事業所理念を【「人と人との温かいふれあいの心」を大切に「1.尊厳と自由の厳守　2.入居者・職員は共に生きる　3.入居者中心の自立支援　4.サービスの質の向上」】として、玄関に掲示している。毎月の職員会議時に皆で理念を唱和して理解し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方がボランティアに来てくださったり、町内行事に利用者が参加したりしている。 ホーム前での日光浴の際に挨拶を交わしたりしている。	自治会に加入し、地域の祭りや行事に参加して地域の人と顔を合わせたり、散歩や玄関前での日光浴時に挨拶を交わしたりしている。大正琴やフルート演奏の定期的なボランティアの訪問を受けている。事業所は代表者の居住地でもあるので、長年の良好な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護職員が地域の者でここに地域の人々と関わっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、職員が出席し利用状況・活動状況などを報告し、家族や地域の方々の情報や意見・要望を受けサービスの向上に活かしている。	民生児童委員・地域包括支援センター職員・家族・利用者・代表者・職員が参加して、2か月に1度会議を開催している。会議では、事業所の現況・行事報告や評価をしており、参加者から要望・助言や行事の案内を受け、事業所のサービスに活かしている。議事録は家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは運営推進会議で情報をもらい、八尾市連絡協議会において意見交換をし運営に活かしている。 介護保険課や地域福祉指導監査課と連絡をとり、情報・アドバイスを受けている。	市役所の高齢介護課や福祉指導監査課と相談したり連絡を交わし、研修会に参加したりメールで情報を受けたりしている。3か月に1度の介護保険事業所連絡会に参加し、意見交換したり情報を受けて運営に活かしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており拘束がないより良いケアに取り組んでいる。 勉強会を通じて職員間で認識を共有している。	身体拘束のマニュアル・指針を作成し、毎月の職員会議時に身体拘束についての勉強会を開いて、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は安全上施錠しているが、散歩に出かけたり、庭先で日光浴の機会を作り、閉塞感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を行っており、現状を見直し、虐待が見過ごされる事がないように職員が常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、具体例を挙げ職員全員が理解できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分説明し、契約書を持ち帰り読んでもらってから契約している。 改定時は手紙での説明や運営推進会議時に説明し質問を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 利用者からは日常の会話で意見・要望を汲み取っている。 家族からはケース会議・面会・個別に毎月の状態報告で事業内容について報告し職員会議で検討し運営に活かしている。	家族の訪問時に利用者のケース記録を見せながら話し、要望や意見を聞いている。聞き取った意見は記録し、職員会議時に話し合って共有している。家族には毎月、利用者の様子や行事の案内を手紙にして送っており、家族から意見や返事が届いている。利用者からは、日常の会話の中で意見や要望を汲み取るようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表と管理者が兼務で常に現場で職員と接しているので、すぐに意見・提案を聞き入れている。 職員会議や飲み会でも意見交換をしている。	毎月の職員会議で意見や要望を聞いていて、代表者は常に現場にいるので何時でも話し合う機会があり、職員の提案をすぐに実践することが出来る。研修の情報を職員に伝え、シフト調整して受講する支援をしている。職員の提案で食事会が設けられ、職員間のコミュニケーションの機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理者として勤務しており、職員個々の能力を把握している。 個々の事情にあわせ無理のない勤務体制を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員レベルにあった外部研修を勧め、施設内では外部から講師を招いたり、毎月職員が講師となり勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市連絡協議会を通じて勉強会や交流を行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の気持ちに寄り添い、要望・不安なことを聞き、話しやすい環境を心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや不安なことなど本人を交えての面接を行い、話しやすい言葉で親身に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見て介護計画を立て、必要なら他のサービスの紹介や医療・ボランティアの要請をし、繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の能力で何ができるかを引き出して、一緒に考えて楽しく安心して過ごせるように職員同士で情報を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来ていただけるように働きかけ、本人の状況を家族に報告し、生活の様子を知っていただくために月一回の状態報告書を郵送し面会・外出・外泊の支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	庭でお茶やBBQをしたり、散歩に行くなど馴染みの方が面会に来ていただけるようにしている。	利用者の家族・親戚や友達などの訪問を受けている。家族と一緒に馴染みの美容院に出かけたり、以前からのかかりつけ医の診察に出かけている。同窓会に家族が付き添って参加しており、出来るだけ今までの関係が継続出来るよう努めている。電話の取次ぎも支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が通じ気の合う者同士を隣の席にしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、看取りの経験を入居中の家族に話していただいたり、遊びに来られたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの聞いたことなど情報があれば全員で共有している。	契約時に家族や利用者から聞いた思いや意向を基にして作成したフェイスシートを用い、利用者本位のケアが出来るよう職員間で情報を共有している。利用者の表情や仕草で思いを把握し、申し送りノートや経過記録に記載して、思いに沿った支援をするように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その日の様子を見て何かできることがあれば手伝ってもらったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の何気ない話をしながら、昔の話を聞くようにしている。 家族が面会に来られた時に近況報告をしながら昔の話を聞いたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望と主治医の意見を参考に介護計画を立て、毎月のケース会議で家族に参加を促し、介護職員と検討している。 本人の状態の変化があれば医療関係者に相談し、計画を見直している。	家族の意見や毎月のモニタリングを参考にして、主治医の意見や関係者と相談して介護計画を作成している。定期6か月で見直しているが、利用者の状態に変化があれば随時見直し、その人の状態に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・食事・バイタルなど介護記録にて情報を共有している。 入居者の変化など、ケース会議にて介護の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内だけでなく必要に応じて往診・通院・ボランティアなど連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しやボランティアなどを活用し、楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が2回／月往診している。 重度の方は毎週診てもらっている。 歯科・精神科・眼科とも連携をしている。	契約時に、利用者・家族の意見を聞いてかかりつけ医を決めていて、内科は月2回、歯科・眼科・精神科は月1回、歯科衛生士は月2回の往診があり、希望者は受診することが出来る。その他の医療機関へは家族の付き添いとしているが、希望により職員が付き添うこともある。受診状況は手紙で家族に伝えているが、利用者の体調に変化がある時は電話で伝えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴・清拭等で身体観察を行い、体調の変化、普段と様子が違う時は看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーで情報提供し、病院の相談員と連絡を取り、退院が決まれば家族・医師・看護師・OT・相談員を含めたカンファレンスに参加し退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期について書面で説明し理解を得ている。 重度化したら再度、医師・家族・施設で話し合い最善の方法を検討し同意書をもらっている。	契約時に、重度化や終末期について利用者・家族に説明して同意書を交わしている。利用者の状態に変化があれば、主治医より家族に説明して同意書を交わし、関係者と連携して支援している。看護師経験者が在職しているので、職員は看取りの研修を受けている。多数の看取りの経験があり、看取り経験の家族からの話で、他の家族は安心を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回は急変時の対応についての勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応できるよう年2回避難訓練を行っている。防災用備蓄食品を用意している。	4月・10月の年2回、消火・避難の自主訓練を実施している。非常災害時用の水・米・カセットコンロ・オムツの用意をしている。事業所は代表者の居住地であり、地域との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の掛け声等は他の入居者に聞こえないよう配慮している。 オムツ交換は自室にて行っている。	接遇の研修で、利用者の尊厳やプライバシーを損なわないケアについて話し合い、オムツ交換やトイレ時に配慮することや声かけに気を付けている。利用者は人生の先輩として目上の人で地位のある人であり、人格を尊重してその人に合わせた対応をしている。個人情報の書類は施錠したロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断をすること自体が難しい方が多くなっている。 意思表示される方には何を飲みたいか、暖かいか冷たいかを聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「自宅に帰りたい」と言われる方には落ち着いて貰うために散歩するなどして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理容や手足の爪、ヒゲ剃りなど整容を行い生活意欲の向上に心がけている。 月一回の訪問理容で整髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月4回は施設メニューを取り入れ食事提供をしている。 重度化が進み準備や片付けを手伝える入居者は居ない。	栄養管理した食材を業者より購入し、調理担当職員が調理して提供している。行事食も取り入れている。週1回は事業所で買い物に出かけ、カレーや弁当など利用者の好みを考慮したメニューを工夫して調理している。代表者が庭先に手作りしたバーベキュースペースで、家族も交えてバーベキューを楽しみ、家族と外食に出かける人もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ適温・形態（とろみ、きざみ等）で提供している。 こまめな水分補給で摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態を把握し、毎食後その方に合ったブラシで口腔ケアをしている。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のある方にはオムツを使用していても声かけをしてトイレに誘導し介助している。	布パンツ・紙パンツ・オムツの利用者それぞれのパターンを把握して、声掛け誘導してトイレでの排泄の支援をしている。夜間は、ポータブルトイレを使用している人や、声かけ誘導したり定時にパッド交換をしたり、個々に応じた適切な排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄記録をして排尿・排便の状況を把握している。 便秘対策として朝のラジオ体操後にヨーグルト入りのジュースを提供している。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴なのでコミュニケーションをはかりながら和やかな雰囲気作りをしている。 転倒事故が起こらないように人員を確保している。	入浴は冬は週2回、夏は3回として、午前や午後に利用者の体調を見ながら入浴している。入浴拒否する人には、時間や人を替える工夫をして清潔保持に努めている。個浴で1対1の対応をして、湯温に配慮して寛いで入浴してもらっている。利用者の状態により、シャワー浴の対応をすることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて昼寝していただいたり、居室にて臥床していただいている。 毎朝ベッドメイキングと換気をして気持ちよく寝られるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を理解するよう受診記録を確認している。投薬時には名前を声出し確認し服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	口体操唱和のリーダーがいる。 洗濯物を畳める方には手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭に出ておやつを食べたり歌を歌ったりしている。 家族が散歩に連れていかれる際は車椅子を貸し出している。	天気の良い日は近くを散歩したり、過ごしやすい春や秋の季節には家族が散歩などに誘って外出している。元気な利用者は近くのスーパーにおやつを買いに出かけている。行事で初詣に行き、花見・夏祭りや小学校のスポーツ祭などに家族と一緒に参加している。	利用者のADLの低下により外出が困難になってきているが、近くに散歩に出かけたり、玄関前の庭を利用して外気に触れる機会を作り、家族の協力を得ながら、利用者の希望に沿った外出の機会を出来るだけ多く設けることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持していることはない。 必要なものは家族に買っていただくか、了承を得て立替購入している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや、入居者の希望があれば掛けることも可能。 毎年年賀状は出せるように名前を書く練習などをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に保ち温度管理を心がけ、ゆったりとした空間で過ごしていただけるよう心がけている。	廊下・リビング・食堂などの共用部分は、利用者が一日中快適に過ごせるように、温度管理に配慮している。廊下・風呂場・トイレは広く設計されて清潔感がある。廊下の壁には飾り棚が作られ、利用者の好みのぬいぐるみが置かれている。テレビ前にソファセットが置いてあり、寛げる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなテレビを観たり、安心して落ち着ける場所になるように入居者同士の相性などを考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や入居者の大事にされてきた物を飾り、いつも清潔に保ち安心して過ごしていただけるようにしている。	居室にはクローゼット・ベッド・エアコン・カーテン・洗面台が用意されていて、利用者の使い慣れた馴染みの箪笥やテレビなどを持ち込み、好みに合わせて配置している。趣味の写真集を揃えたり絵画が飾られたり、今までに過ごした環境に近い部屋作りをして、落ち着いて過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が出来ることは付き添いながら支え、困難な方には寄り添い支援出来るよう心がけている。		